

古くから人々の生活を支え、
人の手が入ることで豊かな自然が育まれてきた
沿岸海域を「里海」と呼び、
いま、その重要性が注目されています。

里海概念を普及し、里海づくりの活動を
広げることを目的に、環境省と国連大学高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
との共催により開催するこのワークショップでは、
さまざまな立場から里海に関わる方々に
意見や経験を伺い、
その内容を国内外に向けて発信します。

国際里海ワークショップ

International Satoumi Workshop

2010年12月20日(月) 10:00~16:30 (開場 9:15)

金沢市文化ホール 大会議室 〒920-0864 石川県金沢市高岡町15-1

参加無料 / 定員: 100名程度 (先着順) / 主催: 環境省、国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

後援: 金沢市、石川県 (予定) 言語: 日英同時通訳あり

Programme

プログラム

10:00	開会挨拶	関 莊一郎 環境省水環境担当審議官 アフメド・ジョグラフ 生物多様性条約事務局長（ビデオ挨拶予定）
10:10	基調講演	ローカルとグローバルな視点で見る生物多様性と里海 個々の文化から見る生物多様性と世界の取り組み（仮題） ダグラス・ナカシマ ユネスコ自然科学局 LINKS（ローカル及び先住民知識システム）プログラム長 COP10 名古屋から検討する里海と海洋生物多様性のグローバル転換（仮題） マリオ・ペロス 国連大学高等研究所兼任シニアフェロー COP10 名古屋で採用された里山イニシアティブと里海の今後（仮題） 中尾 文子 国連大学高等研究所 SATOYAMA イニシアティブコーディネーター 生物多様性に向けた市民ネットワーク活動が果たす役割（仮題） 高山 進 三重大学大学院生物資源学研究科教授
11:50～13:00	休憩	
13:00	事例紹介	日本各地における里海づくりの事例について 沖縄県の事例：鹿熊 信一郎 沖縄県八重山農林水産振興センター主幹 三重県の事例：国分 秀樹 三重県水産研究所研究員 青森県の事例：乾 政秀 株式会社水土舎代表取締役 富山県の事例：辻本 良 財団法人環日本海環境協力センター主任研究員 石川県の事例：寺内 元基 財団法人環日本海環境協力センター研究員 ジュリアス・アブウアラ 国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットポストドクトラルフェロー
14:40～14:55	休憩	
14:55	全体討議	豊かな生物多様性の保全に向けた里海役割（仮題） コーディネーター：あん・まくどなと 国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長 松田 治 広島大学名誉教授 柳 哲雄 九州大学応用力学研究所長 コメンテーター：中村 浩二 金沢大学学長補佐、教授 討議参加者：ワークショップ講演者、一般参加者 等
16:25～16:30	閉会挨拶	

※発表者の都合等により、プログラムを一部変更する場合がありますが、ご了承ください。

Information

申込方法：	件名に「国際里海ワークショップ」と明記の上、お名前とご連絡先を下記 FAX または Email 宛にお送りください。
お問合せ先：	国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット 〒920-0962 石川県金沢市広坂 2-1-1 しいのき迎賓館 3F TEL: 076-224-2266（月～金 9:30～13:00, 14:00～17:30） FAX: 076-224-2271 Email: unu-iasouik@ias.unu.edu URL: www.ias.unu.edu